



本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

…会員随時募集中！…

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内 TEL/FAX：0467-47-1164 木曜を除く10時～16時
Web URL：<http://www1.ocn.ne.jp/~ya-yato/> E メールアドレス：ya-yato@arrow.ocn.ne.jp

8/19 稲の開花



7/30 かかし作り



**収穫に向けて
作業は着々と進みます**

7/30 田の草取り



もくじ

☆各班のお知らせ→2・3p ☆谷戸の自然だより→4p ☆谷戸往来→5p ☆谷戸の体験学習→6・7p ☆9～11月 日程表 →8p(裏表紙)

谷戸を吹き抜ける涼風のおかげで、酷暑の作業も乗り切ることができました。盛夏に訪れた体験学習の小学生、部活動の中学生、ボランティアの高校生の姿が輝いていました(5p参照)。多世代が活躍できる谷戸の保全活動に、いつも目を見張ります。秋の雲を仰ぎながら、可憐な花が実りふくらむ過程を鑑賞しつつ、恵みを期待しましょう。

各班からのお知らせ

田んぼ班



8/12 田の草取り

★9/9(日) すがい作り・はさ設置場所の草刈り
★22(土)、23(日)、30(日) はさ作り

毎週の田の草取りは、大変とは言え、稲の成長を肌で感じる楽しみがありました。その他にも、作業者特典の生きものとの感激の出会いがありましたよ。花が咲き終わり、ネットを張ると、しばらくは田んぼの泥んこ作業からは離れ、稲刈りで使う「すがい作り」や「はさ作り」に入ります。

～畑班・参加者の声～

小さなおゆびで 種をポトリ
大きな指で 種をポトン
土をたたいて トントントン
「大きくな～れ」とささやき乍ら

小さなおてては 草をぬく
大きな手は 草を刈る
「お日様、雨様、虫さん達も
お手伝い お願いしま～す」

小さなおくちを大きく開けて
大きな口を もっと大きく
笑顔一杯、「いただきま～す」
「谷戸の野菜とお米 美味しいね」
(宇田川エリ子)



畑班

★9/2(日)大根の種蒔き・耕し
★9(日)たまねぎ・にんじん・かぶの種蒔き
★16(日)草取り・草刈り・耕し ★23(日)冬菜の種蒔き
★30(日)草取り・草刈り・耕し

猛暑の中「熱中症に気をつけて」や「こまめな水分補給を」を合言葉のように掛け合いながら活動してきました。

毎回多くの方の参加のおかげで、7月上旬には小豆、いんげん、ごまの種を蒔き、梅雨明けと同時に小麦の脱穀を行ない、その後は日に日に成長し畑を覆い尽くさんばかりの勢いの草たちとの攻防を繰り返しながら、さといも、落花生、たのくろ豆の土寄せと、さつまいものつる返しを済ませることができました。たまたま朝練習に来ていた大船中学校陸上部の先生と生徒たち約50人が、疎林広場のさつまいも畑の草取り手伝いを買ってでてくれたのは本当にありがたく、すっきりした畑を眺めながら涙と汗が一緒になってこぼれました。

9月に入ると、畑の作業は大根の種蒔きから始まり、たまねぎ、にんじん、かぶ、冬菜と種蒔きが続きます。よい野菜を育てるにはよい畑作りが必要で、どうすればよい土ができるのか、それは永遠のテーマでもあり、畑班の試行錯誤と切磋琢磨が続きます。



雑木林管理班



8/19 下草刈り

★9/2(日)、9(日)、17(月・祝) 雑木林の下草刈り
★9/16(日) 畑周辺の草刈り

今年は、6月に早々と来襲した台風でミズキが2本倒壊しました。2本とも根元が腐っており、強風に耐えられなかったようです。倒木は、ある程度の長さに玉切り処理して、園内のベンチなどに利用できるようにしました。

9月は、今シーズン最後の土手などの草刈りとなります。まだまだ暑い日が続きますが、谷戸を通り抜ける秋風を感じに参加してください。



農芸班 ★9/7(金)草木染め

さつまいも畑や本田上の畑から赤ジソを収穫しました。塩揉みしてアクを出した赤ジソと白梅酢（塩漬けた梅の梅酢）を合わせるとパッと一瞬で鮮やかな赤紫色に変わりました。シソの香りが口いっぱいひろがります。天日に干されて谷戸自慢の梅干しができ上がりました。

皆さんに味わっていただけるのを楽しみにしています。

9月7日（金）の草木染めでも自然のやさしい色を感じたいと思います。



自然遊び班



昨年の藍の生葉染め

自然遊び班の畑に育っている藍の葉を使って染めものを作ります。いろいろな染め模様が楽しめ、小さな子どもも楽しく簡単にできますよ。残暑厳しいときですが、谷戸には涼しい風が吹き抜けています。

★10/21(日)こども里山一日体験「秋の畑体験」

自然遊び班の畑に5月に植えた苗が収穫の時期を迎えました。大きく育っているかな？

みんなで収穫の秋を楽しみましょう。

★9/16(日) こども里山一日体験 「藍の生葉染め」



昨年の畑作業の様子



生態系保全班 ★秋の虫の音を聞く9/8(土)、10/6(土)



シオカラトンボ羽化直後

秋の夜、美しく響く虫の音に耳を傾けます。エンマコオロギ、ツツレサセコオロギ、ウマオイなど、代表的な秋の虫の音を聞き分けます。



8/6 水温調査



植物育成班 ★植物調査 9/19(水) ★秋の野草を見る 9/24(月)

谷戸には秋の野草が咲き始めました。7月に草刈りをした土手には、ツリガネニンジン、ヒヨドリバナ、ワレモコウなどが土手に色をそえ、湿地は純白なセリの花からピンク色のミゾソバへと移り変わり、秋を感じます。

野草の観察や調査をしながら、草花の名前を学びましょう。



オオジシバリ

谷戸の自然だより

～赤とんぼ(アキアカネ)～

♪～夕焼け小焼けの赤とんぼ～♪の曲で親しまれているのは、アキアカネ(秋茜)というトンボです。よくウスバキトンボ(薄翅黄トンボ)と混同されているようですが、ウスバキトンボは8月ごろから群れで飛んでいる橙色のトンボです。

「赤とんぼ」の歌詞に♪～止まっているよ竿の先～♪とありますが、ウスバキトンボは止まらずに飛び続けているのでアキアカネと見分けられます。9月下旬、ようやく残暑が去る頃、田んぼのネットの支柱にアキアカネがとまっています。見上げると、天高く数知れぬアキアカネが群舞しているかもしれません。気がつけばシオカラトンボが姿を消し、アキアカネに入れ替わっています。わずか一週間ほどで夏のトンボと秋のトンボが鮮やかに交代するので、秋が突然やって来たように感じます。そして、稲刈りが終わる10月半ばの秋晴れの日の午前中、アキアカネの産卵が一斉に始まります。オスとメスが前後につながって、お尻(腹の先端)でチョンチョンと田んぼの水たまりをつつくように産卵します。卵のまま冬を越し、春にヤゴ(幼虫)が生まれます。田植えが終わる6月半ばから7月にかけて、ヤゴは稲株に這い上がってトンボになります。一番草の頃、稲株につかまっている、うまれたてのアキアカネを見た人もいでしょう。まだ体が赤くないので、赤とんぼ(アキアカネ)とは気づかないかもしれません。田んぼで生まれて、夏の間は長野県などの高原で過ごし、秋になるとまた田んぼに戻って産卵します。

谷戸の田んぼで生きものを調べると、アキアカネのヤゴ(幼虫)は“大田”、“中田”など、冬季に乾燥する区画に多い傾向があります。おそらく、ライバル(捕食者となり得る)のシオカラトンボ類のヤゴが多い区画では、春先に生まれたばかりのアキアカネの小さなヤゴが食べられてしまうのかもしれませんが。冬季に乾燥する区画ではシオカラトンボはじめ他のトンボのヤゴが減少してしまうので、アキアカネのヤゴが無事に育ちやすいのでしょう。谷戸の田んぼは、昔ながらの大小さまざまな区画に分かれていることで、生きものに多様な環境を提供しているのです。

谷戸の裏方①

～屋外作業場～

私たちの活動の縁の下の力持ちが、倉庫前にある屋外作業場です。

収穫物の干し場所、保管場所になり、また天気によってはここで作業を行うこともあり、日々の活動になくてはならない存在です。屋根は会員の手作りで、台風などで

解体したことも何度かあり、作業以外の日に、緊急招集によって集まった人たちで応急手当をしたり、作業返上で修繕を行ったり、なかなか苦勞しています。市の施設として、一日も早い、しっかりした作業場の設置を願っています。



6/3 刈った小麦を小束にまらいて干す



7月の台風で倒壊した様子



谷戸往来 谷戸往来 谷戸往来

山崎の夏まつりに参加

7/22、今年も担ぎ手として当会から8名が参加しました。



子どもお泊り里山体験、無事終了

7/29～30、鎌倉市公園協会との共催で恒例のお泊り体験を実施しました。参加者は小学4～6年生15名。自炊をし、畑・草刈り仕事などを手伝いました。☆感想文より☆「楽しかったのは、火の番、ほたるの観察、みんなでテントにとまったことなどです (M.Y)」 「自分で作ったお皿で食べたのでいつもよりおいしく感じました (T.S)」 「かかしの頭を2個つけるのはむずかしかったけど、かわいくできて良かったです (N.A)」 「ふえと竹トンボすごく楽しかった。鳴って、すごい! (A.M)」

当会の冊子を寄贈

梶原子ども会館が7月にオープンし、早速、当会の冊子「体験学習の手引き」と「谷戸と暮らし」を寄贈しました。

早速、本を開いて夏休みの宿題をしている子もいました。



中高生が夏の谷戸保全活動で活躍

鎌倉女学院高校1年の生徒さんが市社会福祉協議会主催の青少年ボランティアとして、泥の中での田の草取り作業を体験し、驚きながらも楽しんでいました。☆感想より☆「土地の地形を生かした昔ながらの方法はすごいと思いました。貴重な体験ができて本当に良かったです。」

また、大船中陸上部50名のみなさんが畑作業に参加してくれました。全員が集中して取り組み、あ



っという間に畑は見違えるようになりました。顧問の岩田明先生から「雑草取りはとて面白いトレーニングになった」と感想をいただきました。

来園者コーナー

7月のある日、深小5年男女6人が「半日授業だから」と遊びに来て、田んぼを眺めていました。毎月ここで農作業体験の授業をしている彼らを畑に案内し、「無農薬だから、虫がたくさんついて大変なんだ～」と話す、「いたいた～」と虫を確認。その後、「ありがとうございました～」と元気に遊びに戻って行きました。授業以外でも来園している姿に、指導している者としてはうれしく思いました。